

新宮山彦ぐるーぷ第1916回

南奥駆道の春季点検巡視(玉置辻) 21世紀の森間の交差点検

◇実施日：2017年02月19日(日) 晴

◇参加者：玉置辻(21世紀の森(順峰班))：豊嶋 寛、川島 功、児

嶋道夫、濱野兼吉、畑林清子、高階美根子、竹中卓治。

21世紀の森(玉置辻(逆峰班))：沖崎吉信、梶野照雄、

山口泰宏、青木宏充、塩川真武。 12名。

一、玉置辻(21世紀の森間の点検巡視班(順峰班))

新宮発7時30分2台の車に分乗し、瀨峡トンネル前で紀北組の高階、竹中さんを乗せ玉置辻に向かう。玉置口からの道路は狭くクネクネと曲がり運転の下手な私など車と出会ったらどうしようかと心配するが、沖崎、川島さんは手慣れたもの苦にもせず進む。池郷・前鬼の林道と比べれば舗装もされ、パンクの心配もないので軽いモノなのだろう。玉置川集落を過ぎると未明に雪が降った様でうつつら白くなっているが、日陰以外は路面に積雪が無く1時間もせず玉置辻に到着。



玉置辻・出発



玉置神社参拝



玉石社参拝

私たちはここから21世紀の森を順峰で目指し、沖崎さんは奈

良・大阪組と合流し、21世紀の森からこちらに向かって逆峰で無線機で交信しながらこちらへ、

昨夜の雪はうつつらと残るが、アイゼンを付けるほどでもなく出発。今まできづかなかったけれど、奥駆道のすぐそばに「平家の供養塔」が立っているのに気づいた。紀伊半島各地は多くの権力闘争で敗れた人びとが逃げ隠れて住み、至る所に落人伝説や埋蔵金の話が伝承され、貴種流離譚が残る。この地もまた隠里、中上健次文学に象徴されるように「歴史の転換点の時期にかならず登場する敗れた者の敗走の伝説」という事になるのだろうか、こ

こも「花折塚」もまさに象徴的な存在なのだろう。玉置神社への道は杉の巨木が林立し、深閑として神々しさを感じ、六根を清浄し心身を研ぎすまさない拒まれるような雰囲気になる。ここはまさに「山是神」である。杉の梢から舞い落ちる雪がまるでダイヤモンドダストのように光り輝いてとてもきれいだ。本殿に参拝して峰中、作業の安全を祈願する。コンクリートの参道は凍り付いていて滑らないように慎重に歩く。境内にある各社にお参りしながら山頂に向う道で、凡鐘を見つけ神道の中に神仏習合の名残が生き続けている事に、心を和ませた。



玉置山山頂(1076.8m)



新雪に覆われた奥駆道



かつえ坂展望台

玉置山山(1076.8m)からは、熊野灘が太陽の光を反射して金

色の輝き見せ、風もなく空気が澄んで遠望も素晴らしくのんびりしていると、神社で出会った若者達も登ってきて川島代表は「山彦」の活動を若い人達に紹介しました。

玉置山はまたの名を「牟婁岳」、「沖見嶽」とも呼ばれ信仰の山であるとともに、周辺地域を代表する山でもある。山しかないこの郷から眼下に海が見える。歩けば数日かかる海が手に取る近くにあるのだ。海など見た事もない古の人たちはなんと感激したことだろう。山頂からシヤクナゲのトンネルをくぐりカツエ坂へ。

カツエルは、空腹になる。飢えるという意味である。峰入修行の地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天、声聞、緑覚、菩薩、仏の餓鬼からきているのであろうか、修行とは山林を抖擻すること、煩惱を克服し神と仏に近づき民衆を救うということなのだろう。

尾根道に出ると北西の風が吹きつけ寒さが増し、新雪が靴の裏にくっつき歩きにくいのが難点だが、ラッセルをする事から比べれば楽なもので、花折塚までは倒木もなく、順調よく進む。

横峰金剛(石碑・水呑金剛)を過ぎて杉の倒木が道を塞ぎ、チェンソーで豊嶋さんが処理、ここから松の倒木や檜の倒木が連続してあり、チェンソーで小切りして道の傍らに処理する。



花折塚



倒木をチェンソーで切除



逆峰班と合流し日だまりを選んで奥駈道沿いに並んで昼食。児

嶋さんから卵の燻製とコーヒーを御馳走になり、チョコレートやお菓子の差し入れですっかり満腹になる。



交差・合流地点で昼食・児嶋喫茶



林道と最後の合流地点



午後からは逆峰組にチェンソーを渡して、私たちは稚児之森、蜘蛛の口、如意珠岳(如意宝珠岳・千眺の森736m)と登りが続くが順調良く進み、下って古屋宿跡を経て、古屋の辻から21世紀の森に降りる。

奥駈道を渡る風は身を切るように鋭く冷たかったが、21世紀の森の林道に出るからは、風が軟らかく優しく頬に伝い、春を感じる風に和んで楽しい山行となりました。



稚児之森祠



蜘蛛の口(岩ノ口)



古屋宿跡石碑

山口さんの車はキーがなくてもエンジンがかかる最新式の車で、エンジンをかけるのに手間取るが、山口、沖崎さんの車に分乗し玉置山の駐車場に向け出発、途中集材作業中の重機に少し待たされたが、この作業のため道路は除雪がされていて、凍結もなく順調に駐車場に着きました。竹中さん運転の車は展望台に寄り、釈迦ヶ岳の雪景色が素晴らしかったとのことである。



21世紀の森・東屋

駐車場売店内で休憩

玉置山への標識設置

玉置山駐車場に戻って売店でお茶を御馳走になり、梶野さんから残っていた倒木を数本途中処理したと報告がある。心配された雪もたいしたことなく順調に捗った巡視であった。

帰り際に、玉置山駐車場より玉置山への登山口に標識を設置。最後に奥駈道の脇にサルトリイバラノ等のトゲのある植物がチヨクチヨク見られた。剪定バサミがあれば簡単に取り払う事ができるの、今後剪定バサミも必要なことも提起された。

行動タイム

新宮 7:30→8:30 玉置辻 8:35→9:10 玉置神社 9:25→9:30 玉石社
 ↓ 9:40 玉置山 9:50→10:05 かへ坂 ↓ 世界遺産記念碑 → 10:40 花折塚
 ↓ 11:10 横峰金剛 → 11:25 昼食 12:00 → 12:20 稚児之森 → 12:25 蜘蛛
 ノ口(岩ノ口) ↓ 如意珠岳(736m) → 12:53 古屋宿跡 → 12:57 古屋ノ辻 ↓

13:20 21世紀の森・東屋 13:35 → 14:10 玉置神社駐車場 15:15 → 16:35 新宮。
 (濱野記)

二、21世紀の森から玉置辻間の点検巡視班(逆峰班)

18日の夜に気象レーダーを見ると、紀伊半島の山間部に雨雲が映っていた。19日の朝、天辻峠のライブカメラを確認すると、路面が白くなっていたので5時半に出る予定を15分早めて出発。天辻トンネル付近では、先行車のスピードが極端に遅くて、十津川の道の駅には、約10分遅れで到着。R425 から玉置神社へ向かった。玉置神社までの日陰には3cm程の積雪が残っていてスピードが出せない。玉置神社の駐車場へ上がる三叉路を越えたとこで、超スロー走行の先行車がいた。よく見ると、先頭が青木車、後ろが塩川車だった。同時に駐車場着、登山準備をして沖崎さんを待つ。迎えに来た沖崎車に分乗し21世紀の森の東屋へ。



玉置神社駐車場



21世紀の森東屋前で



林道終点から登山開始

21世紀の森で山口さんと合流、5名で古屋の辻へ登り始めた。北からの風が強く、体感温度は低い。約25分で古屋の辻に到着、

しばらく休んで南下を始めた。歩き出して5分ほどで最初の倒木に出会う。直径15cmだった。4人で6分程かけて切除。

第11靡・如意珠岳(如意宝珠岳:736m)は、小さなピークだが東側に、はっきりした捲き道ができていて、山頂には碑伝も少なく、訪れる人は少ないようなので、山頂へ誘導する方法を後日講



最初の倒木と切除後の奥駈道



第11靡・如意珠岳



蜘蛛の口(岩の口)



仮設標識取付け

蜘蛛の口では、上葛川へ降りる道がはっきりしていて、三井寺の標識が若干そちらの方へ向いていた。順峯の場合、うっかりと上葛川方向へ行ってしまうようなので、三井寺の標識の位置を変え、文字が消えていたブリキ板に、マジックで方向を記した仮設標識を設置した。

その後も次々と倒木が有り、その都度鋸で切除しながら進む。

4カ所目の倒木を切っていると、チェーンソーの音が聞こえてきた、玉置神社からの川島班がすぐそこまで来ているようだ。



2カ所目の倒木鋸切除



3カ所目の倒木鋸切除



4カ所目の倒木鋸切除



川島班と合流し斜木切除



登山道に座り昼食

11時25分、川島班と合流、斜木をチェーンソーで切除し昼食にする。広い場所が無いので、道沿いに座ってのお昼だったが、風が当たらず、日差しもあったので寒さは感じなかった。
川島班が、斜木を一本残してきたので寒さは感じなかった。
チェーンソーを持って玉置神社へ向かう。歩き出して10分ほどで直径20cmほどの杉斜木があった。3カ所切断して除去した。



杉斜木をチェーンソーで切除作業



突き出した古い倒木



展望台から釈迦ヶ岳と中八人山・笠捨山



その後も折れて道を塞いでいる木や突き出した古い倒木があり、チェーンソーは合計3回使用した。

山口、塩川両氏は、この区間は初めて歩くことから沖崎さんと玉置山へと先行。青木さんと私は展望台で眺望を楽しみ、林道を歩いて玉置神社駐車場まで戻った。

沖崎・山口・塩川氏は、玉置山を経て玉置神社に参拝後、玉置辻に駐車した川島車を回送し、14時45分玉置神社駐車場へ。売店で休憩後、15時15分此処で流れ解散となる。

行動タイム

2世紀の森9:10↓古屋の辻9:35↓9:55(如意珠岳(如意宝珠岳)↓10:33蜘蛛の口(岩の口)↓11:25川島班と合流・昼食11:55↓13:03花折塚↓13:35展望台↓14:08玉置神社駐車場。

(記：梶野)